

愛知県立一宮工業高校

愛知県立一宮工業高校は機械科、電気科、建築科、土木科の四つの学科で構成する。1



安達校長

963年の設立当時から学科編成を変えておらず、軸のぶれない安定感から産業界の信頼は厚い。求人倍率の高さが自慢で、15年度も

【DATA】▷校長—安達一成氏▷所在地—愛知県一宮市▷学科構成—機械科、電気科、建築科、土木科▷生徒総数—704人▷主要設備—マシニングセンター、溶接機、CAD、コンピューターなど▷主な進路—中部電力、トヨタ自動車、デンソー、アイシン精機、三菱重工業など

う。「新たな自分の発見やコミュニケーション能力の向上に役立ててほしい」と期待を寄せる。3年生の課

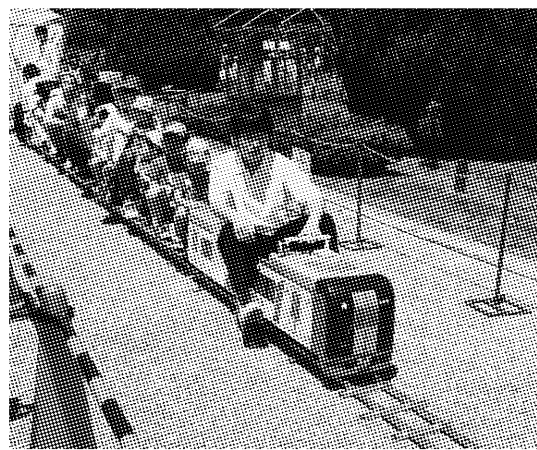
信頼に込める「適材適所」

約9・9倍と高水準を維持。安達一成校長は「校長に就任した3年前から年々上昇している。進学者も増やしたが、優良企業の求人割強が就職を選ぶ」と

案できるように目を配る。15年には愛知県下で唯一の「男女共同参画指定校」に選ばれた。育見に積極的に関わる人間としての心構えのほか、外部講師を招いてビジネスマ

題研究にも力を入れる。土木科では15年度に「防災かまどベンチ」を製作。通常はベリオンチとして使い、災害時には座席部分を取り外して土台がかまどになる。ベンチに使う木材を薪として炊き出し

に利用できる。電気科の生徒は地元商工会議所と連携し、14年度に開発したアプリが好評。一宮市発祥の「優れた技術者には世界と戦える頭脳と健康な体が必要」と、部活動も盛んで生徒の約7割が運動部に所属する。機械部や電気部



模型工作部が部活動の一環で製作した大型鉄道模型

など工業高校ならではの部活動も活発だ。中でも模型工作部が製作した人が乗れる大型鉄道模型は、地域のお祭りなどで子どもたちが人気が高く、時には出展依頼を断らねばならないほどだ。教員もスキルアップに余念がない。生徒に実践的な学びを提供したいと、夏休みを活用して企業で実習を行う。「生徒は無限の可能性を秘めた宝。地域と連携して成長のチャンスを与えたい」と研さんに励む。(名古屋・一色映里)

(金曜日に掲載)

育成 モノづくり人材 Vol. 28